



ぐっち協力隊がゆく!

地域おこし協力隊・田口佳子
☎43-3306 (旧馬荷小学校)

夏真っ盛りですね。猛烈な暑さが続いたと思えば、台風が次々に到来して雨が続きたり、皆さんは変わりなく過ごされているでしょうか?

さて、夏といえばお祭り! 7月は蛸瀬川地域の夏祭りにおじゃまさせていただきました。こんな素晴らしい古き良き文化を今も守り、続けていることに私は心打たれました。

しかし、残念なことに、どこの集落でも少子高齢化で、神輿の担ぎ手不足のため、トラックに積んで地域を回ったり、神輿をもう何年も出していない集落もありました。悲しいですね…。神輿の担ぎ手不足だけでなく、しめ縄作りや準備など、詳しいことを知る方々もどんどん高齢化してきています。黒潮町だけではなく、どこの市町村も同じような壁にぶつかっていることでしょう。

簡単に解決できる問題ではありませんが、あきらめるわけにもいきません! 今の子どもたちの時代も、その子どもたちの時代も、この文化、伝統が続いて行くように、今、自分にできることをやっいていこうと思いました。

そして、いつも感じることは、おじいちゃん、おばあちゃんが元気であること! 情熱もパワーもすばらしく本当に感心します。私も見習わなくてははいけませんね。



御坊畑地区(上)と馬荷地区(中・下)の夏祭り。神事後、神輿を積んだ軽トラックが地域を回りました。



ケニア通信

No.6 レポート: 浜岡由衣(黒潮町佐賀出身)
～ 青年海外協力隊 in Kenya ～



村の子どもたち



村の子どもたちと一緒に☆

●ムズング・ハウユ? (Muzungu, how are you?)

ケニアのいなか町を歩くと、子どもたちのこんな大合唱に出会います。ケニア人(特にいなかの人)はとてもフレンドリーで、知らない人でも道ですれ違う時は必ずあいさつを交わしますが、その気質は子どもたちも立派に受け継いでいて、外国人が通ると「Muzungu, how are you?(外国人さん、お元気ですか?)」と話しかけてくれます。まだ小さい子たちなので、「I'm fine thank you, and you?(元気で、あなたは?)」と聞き返しても返答することができないことが多いですが、外国人に対し、英語がほぼ分からなくても臆することなく話しかけてくれる、すごくフレンドリーな子どもたちに、いつも元気をもらっています。

日本人はあまり外国から来た方々に話しかけたりすることはしませんが、なんでもよいから話しかけてもらえると嬉しいものなんだと分かりました。学校で教わったたった一言「Muzungu, how are you?」で、旅行者や仕事で来ている外国人を元気にできるケニアの子どもたちから、毎日大切なことを教わっている気がします。